

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

209-681

事務事業名	飯田女子高等学校運営支援事業				財務会計上の位置付け	会計	1	款	10	項	1	目	2	細目	10	細々目	2	19予算額(千円)	1,536	
部等名	教育委員会	課等名	学校教育課		包含する細々目															
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり																			
施策	23 高等教育の充実																			
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等															
		事業期間	3	年度～																

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	私立高等学校	学校数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了した年度とする	
			1		1	
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	学ぶ環境が整備される	学ぶ環境が整備された学校数	18目標	1	最終目標	
			18実績	1	19目標	1
			23目標		23実績	
		飯田女子高等学校の学生数	18目標		最終目標	
			18実績		19目標	
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	飯田女子高等学校に対する運営費の助成を飯田下伊那の市町村が共同して行うことにより、同校の運営の支援を行う。 助成額の算出は、次の方法による。(1) 経常経費に係る助成 飯田市、高森町、松川町、喬木村及び豊丘村で合計900千円を助成、(2) 学生数割助成 市町村ごとに飯田女子高等学校に在籍している学生数に応じ助成を行う。 助成額の算定は、飯田女子高等学校からの要望に応じ、町村会で市町村ごとの助成額を決定。	飯田女子高等学校に対して運営費の助成を行う	助成額	1487
	18年度の実績			
	19年度計画	飯田女子高等学校に対して運営費の助成を行う	助成額	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,486	1,536
	事業費計(A)	1,486	1,536
人件費	正規職員所要時間	18年度 5	19年度 5
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	18	18
	トータルコストA+B	1,504	1,554

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	学ぶ機会が得られる	在学している学校に満足している人の割合	現状値	64	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	70
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成元年及び平成2年に飯田女子高等学校から町村会に私学助成に関する要望書が提出された。町村会での検討の結果、平成2年9月に平成3年度から同校に対して助成を行うことが決定された。	飯田女子高校の経常経費に係る助成として、飯田市、松川町、高森町、喬木村、豊丘村の5市町村で、資力・人口・生徒数などに応じて90万円を負担している。 また、生徒数割助成として、飯田女子高校への通学生がいる飯伊の市町村で、生徒1人当たり2,600円を負担している。	570人余の生徒が学ぶ飯田下伊那で唯一の私立高校であり、私学助成に対する市民や議会の理解は得られていると思われる。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 飯田女子高等学校の運営費の助成を行うことにより、同校の学習環境が整備され、又学生個人の経済的な負担が軽減され、学ぶ機会を得ることにつながる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がない (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 飯田女子高等学校を対象とした運営費の助成であり、同校が現在のところ飯田下伊那地域唯一の私立高等学校である。		効率的 評価	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 飯田女子高等学校の運営に影響が及ぶ
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 飯田女子高等学校の学習環境の整備を目的とした助成事業であり、意図の変更は、想定されない。			公平性 評価	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 飯田下伊那の市町村が共同して助成を行っている事業である。		公平性 評価		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
			公平性 評価		受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> 具体化 実施年度 </div>	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	